

2021年7月18日（日）聖霊降臨後第8主日

銀座教会 家庭礼拝

礼拝招詞 「主に感謝をささげて御名を呼べ。諸国の民に御業を示せ。主に向かって歌い、ほめ歌をうたい 驚くべき御業をことごとく歌え。」詩編105編1～2節

主の祈り

天にまします我らの父よ、願わくはみ名を崇（あが）めさせたまえ。
み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧（かて）を今日も与えたまえ。
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。
我らを試みにあわせず、悪より救い出（いだ）したまえ。
国と力と栄とは限りなく汝（なんじ）のものなればなり。 アーメン

使徒信条

讚美歌 238 疲れたる者よ、我にきたり

聖書

マルコによる福音書4章35～41節

35 その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われた。36 そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。37 激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。38 しかし、イエスは艫の方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。39 イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり風になった。40 イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」41 弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。

牧会祈禱

天の父なる神さま。あなたの憐れみにより、あなたの眼差しを受け止めることの出来ない者にもかかわらず顧みてくださいました。罪深い私たちを御前に立たせて下さり感謝いたします。本日は、銀座教会創立131年、主の導きを覚えて礼拝を捧げます。1890年築地教会の伝道により、この地が与えられ131年を迎えます。聖霊なる神の憐れみにより招かれ、赦され、信仰の先達と伝道者をあなたが用いてくださいました。激動の時代の中で、御言葉を聞き続けた教会の歴史を感謝いたします。いよいよ、150周年に向けて、主の御委託に応え、御言葉を宣べ伝える御業にお仕えしたいと願います。人間の栄光ではなく神の栄光のみ現すことが出来ますように、あなたの栄光のみ喜びとすることが出来ますようにお導きください。感染者はじめ命を支えるために働く医療従事者、隣人愛をもって働く者を御手の内に覚え、お支えください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

説教 「嵐の只中で主を仰ぐ」

牧師 高橋 潤

本日、銀座教会は創立131年を迎えました。1890年、神は築地教会の伝道地を求める祈りに答えて、この地をお与えくださいました。113坪の土地建物を6500円で購入し、初代小方仙之助牧師が就任、ジュリアス・ソーパー宣教師が協力して、伝道牧会が進められました。「イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われた。」とあるように、築地から向こう岸、銀座に渡ったのです。「群衆を後に残し」とあるように、銀座教会の伝道のために築地教会は70名を銀座教会に派遣し、そのほかの教会員を築地教会に残しました。こうして、「イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。」とあるように、日本メソジスト築地教会と銀座教会は1907年合同するまでの17年間は、別々の舟での旅でした。1912年には、第二次会堂が竣工し、献堂式を行いました。ソーパー宣教師を派遣した米国の教会の喜びと祈りが合わせられ、多くの教会が共に喜びました。

1923年関東大震災によって、献堂式後わずか12年、礼拝堂が焼失してしまいました。まさに突然の「嵐に襲われた舟」のように礼拝堂の焼失、教会員の多くが被害をうけました。青山学院講堂において、青山教会と共に礼拝を守りました。焼け跡を整地して仮礼拝堂を建てました。この仮礼拝堂を利用して、罹災者の宿泊、医療、託児所などの社会事業を行いました。1927年蒲田教会の独立のために会員15名を送りました。同年、日本メソジスト日本橋教会が銀座教会に合併しました。そして、いよいよ第三次会堂定礎式を行い、教会員の杉原正四郎宅を仮会堂にして工事が進められました。大井講義所開設、月島路傍日曜学校が開設されました。1940年、大井講義所、月島伝道所は使命を終えました。1941年日本メソジスト銀座教会は日本基督教団銀座教会になりました。1945年東京大空襲によって教会員の家が多数損傷を受けましたが、戦時中、後に触れませんが正午礼拝は休むことができましたが、主日礼拝は一度も休むことなく続けることが出来ました。銀座教会も全国の教会も神の国を目指しながら、何度も嵐に遭遇しました。大震災や戦火の中で礼拝する場所を移動しても、礼拝を守り続けました。世界中の教会が戦争や災害など嵐に直面しています。

嵐の間、舟の中で枕して眠っておられた主イエスを見ていて、弟子たちは、不安の中で冷静さを失い、枕する主イエスへ怒りをぶつけるようになっていました。聖書では「嵐」は悪霊であると見なされています。嵐によって、船が転覆しそうになりました。それだけでなく、弟子たちでさえ攻撃的になってしまいました。嵐は、弟子たちの心をかき乱すのです。巧みな悪霊の仕業です。主イエスは、これまで悪霊を追い出していたように、「嵐を叱り」、湖に「黙れ。静まれ」と命じました。弟子たちの信仰を失わせるような悪霊を叱りつける主イエスがおられます。銀座教会131年の歴史においても、繰り返し、嵐の中で、主イエスの御声を聞き続けてきました。迫害、関東大震災、戦時中においても、嵐の中で、主イエスに目を向け、主イエスの御声を聞き続けることが大切なのです。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」と主イエスの御声を聞き続けた131年の歴史です。

本日は、銀座教会の特色の一つ正午礼拝について歴史にも目を向けたいと思います。正午礼拝は、毎週、月曜日から土曜日まで6日間守られています。週日の正午、約30分間、聖書日課の朗読と説教または信徒の奨励が語られています。コロナ禍、緊急事態宣言中、残念ながら休会することになりましたが、7月1日から再開することが出来ました。

78年前、1943年（昭和18年）4月1日の第1回正午礼拝以来、現在まで続いて

います。2年後80年を迎えます。「正午礼拝」が銀座教会の週報にはじめて記載されたのは、1943年（昭和18年）3月28日週報の第二面でした。次週予告として掲載し、同年4月1日（木）から行われました。当時の正午礼拝は毎週火曜日と木曜日の週二回でした。正午礼拝の必要性は、1941年（昭和16年）から1942年6月頃まで、常時100名を超えていた主日礼拝出席者が減少の一途を辿り、70名から80名程の出席者となりました。このような状況の中で何とか「礼拝を守ろう」「礼拝に出席しよう」という信徒の熱い祈りと願いの結果、正午礼拝が開始されました。

時代は戦中であり官憲の監視の眼を考慮して、正午礼拝を「必勝祈祷会」とすることを決定しました。しかし、当時の教会員の回想では、「必勝祈祷会」という名称を強く意識した記憶はなく、監視の眼を考慮した対外的な対策による名称だったようです。「必勝祈祷会」の名によって行われた正午礼拝は、1945年（昭和20年）まで約2年に亘って続けられました。この間、牧師の長期に亘る勤労働員や防空演習などのためにしばしば正午礼拝は休会しました。「空襲警報の場合はもちろん、警戒警報の場合すべての集会を中止す」と記されています。1945年8月戦争終結により、戦後の新しい歩みが始まりました。1947年（昭和22年）1月6日から正午礼拝は、月曜日から土曜日まで週日通して毎日行われるようになりました。来年はこの年から75年を迎えます。

1948年から1955年にかけて7年間の聖日礼拝出席者数は平均300名を超えました。正午礼拝も急速に増加し、創立60周年を迎える1950年ころは、一週間の正午礼拝出席者数500名から600名、一日平均100名を超す勢いでした。土曜日の正午礼拝では宣教師による英語説教も行われました。1949年から週1回奥田耕天先生が担当され、讃美歌指導の礼拝が行われました。信徒による定期的な奨励・証しによる奉仕も1951年（昭和26年）2月1日（土）からはじめられました。1962年（昭和37年）10月7日待望のオルガン奉獻式を行うことが出来ました。オルガンメディテーションとして守る正午礼拝の基礎が出来ました。

第四次会堂の建設後、1985年（昭和60年）正午礼拝の現状分析とその意味を考え、提案がなされています。銀座教会の大きな責任・使命であるとし伝道の有力な方法と機会のひとつである正午礼拝の意義を再確認し、今後の展望と課題も記されています。

第1 すべての人々は御言葉に接し、神を礼拝することがゆるされている。正午礼拝はその場であり機会である。

第2 銀座教会の教勢拡大という自己目的ではなく、東京全体の人々、教会、更に広く日本全体の人々、教会に奉仕する働きの一つである。

第3 都市特有の状況の中で、問題や苦悩を抱えた人々に慰めと安らぎを提供し、福音によって問題解決の助けを見いだし、未来への希望を持ち得るように励ます時であり場である。

第4 銀座教会員を含め、既に信仰を与えられた者にとっては、日々御言葉によって新しい力を得、確信と勇気が与えられる時である。

これらの正午礼拝の意義は、現在も変わることなく毎年、確認し、新たに受け止める必要があると思います。

もう一度、本日与えられた聖書の御言葉に目を向けましょう。37節以下です。主イエスの弟子たちの中には四人もガリラヤ湖の漁師がいました。彼らは、この湖の気候や嵐を何度も経験し熟知していたはずです。主イエスが寝ていたのも、そのような元漁師たちに安心して任せていたと思われる。しかし、ひとたび嵐に遭遇すると、主イエスが安心し

て寝ていることが目障りになるのです。これが悪霊の正体ではないでしょうか。教会においても、主イエスが安心して寝ているのです。しかし、主イエスがおられることが分からなくなり、私たちの力で何とかしなければならない、私たちの思い通りに主イエスが動いてくれない、そこに悪霊が入るのです。悪霊の仕業は巧妙です。

主イエスが「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」とお語りになりました。信じないとはどういうことでしょうか。主イエスの寝ている態度を問題にし、非難することではないでしょうか。主イエスが共におられるのに、いないかのように振る舞うことではないでしょうか。嵐を恐れ、怖がるのは、主イエスが役に立たないと思いついでしまうからではないでしょうか。

主イエスは、教会という舟に乗っておられるのです。そして、嵐の中起き上がり、風を叱り、湖に「黙れ。静まれ」と命じられ、悪霊を追い出して下さるお方なのです。41節には「いったい、この方はどなたなのだろう。」とあります。この方こそ、私たちの教会を導いてこられた救い主です。イエス・キリストですと、声高らかに賛美し続けるのです。主を賛美し祈る時、私たちの信仰の耳は、どんな嵐の中でも「黙れ。静まれ」という主イエスの権威ある声を聞くことが出来るのです。嵐の只中でこそ主イエスを仰ぐのが信仰なのです。どんな嵐であろうと、主イエスを仰ぎ、御声を聞き続けましょう。

天の父なる神さま。悪霊の支配に見える世界に主イエス・キリストが神の支配を現し、私たちが時代の嵐しか目に入らないときに、主イエスの方へと目と耳を向けさせてください。主イエスが立ち上がってくださったことを感謝いたします。神の御声を聞き続け、主イエスを通して神の国を見る目と耳をお与えください。主イエスの御名によって祈ります。

祈 禱 (各自、自由にお祈りください)

祈禱課題 病を負っている方々とそのご家族に主の癒やしを祈りましょう
命の危機、不安と孤独に直面している方々に主の恵みを祈りましょう
医療従事者の健康が守られ使命が支えられますように祈りましょう

讚美歌 273B わがたましいを 愛するイエスよ

献 金

頌 栄 544

祝 禱

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。
主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。
主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。 アーメン